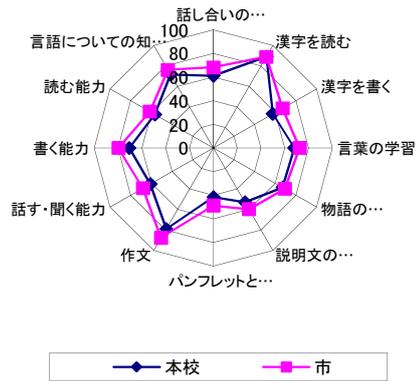


宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	61.1	68.2
	漢字を読む	89.2	89.0
	漢字を書く	57.6	67.0
	言葉の学習	68.0	72.3
	物語の内容を読み取る	67.0	69.2
	説明文の内容を読み取る	53.0	59.8
	パンフレットと話し合いの内容を読み取る	41.7	48.9
	作文	79.1	87.8
観点別	話す・聞く能力	61.1	68.2
	書く能力	70.5	79.5
	読む能力	56.7	61.5
	言語についての知識・理解・技能	71.6	76.2



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	正答率が60%をやっと超えた程度で、十分に定着していると言えない。大切なことを選ぶことができず、聞き取れたことをメモに取った児童が多かったようだ。	これからの中学校生活では、更に聞く能力が必要になることを話し、聞き取りのテストの時間だけでなく、普段の授業でもその能力が生かせるように心がけさせたい。
漢字	漢字の読みは正答率が90%近く、定着していると言える。しかし、漢字の書きは正答率が60%をきっており、苦手な傾向にあることが分かる。漢字の書き問題は5年生の内容なので、時間の経過とともに忘れてしまっているようだ。	音読や読書の効果として漢字がよく読めていることを話し、さらに、読書の奨励をしたい。漢字の書きに関しては、普段のノート記入や作文などの指導の際に、習った漢字を必ず使うようにさせるとともに、分からないことを自ら調べることを実践させたい。
言葉の学習	言葉の学習の分野では、特に敬語の使い方の定着率が低かった。また、熟語の構成に関しても、市の平均よりもかなり低かった。	普段の学習であまりふれられていない内容に加えて、具体的な実践もしていなかったことが要因と思われる。中学校では、言葉づかいについて重点的に指導を行うこともあるので、プリント等で復習させるとともに、普段の生活の中でも実践させたい。
物語の内容を読み取る	定着率が67%で、市の平均とあまり変わらないが、十分に定着しているとは言えない。	物語を読んで内容を理解する能力をつけるために、読書の指導に力を入れたい。そのうえで、中学校の国語の内容が小学校に比べてかなり難しくなることも話し、読書を続けていくことが力を伸ばす有効な方法であることを知らせ、実践させたい。
説明文の内容を読み取る	正答率が53%と、低い定着率であった。内容を読み取りそれを他に当てはめるといった応用力は特に落ちている。	説明文については、児童の興味にもかなりの差があるようだ。物語文は読んでも、説明文になると苦手意識が働いてしまう児童も多い。いくつかの説明文を用意し、段落と段落とのつながりを意識しながら読むようにさせたい。
パンフレットと話し合いの内容を読み取る	正答率が41%で、かなり低い定着率であった。特に、資料を読み取りそれをまとめる問題で低い定着率であった。	国語や総合の時間に、資料を収集し、それらの中から必要なものを取捨選択し、まとめるという学習はこれまでに数多く経験している。しかし、苦手な児童が多くみられる。苦手な児童の力を伸ばすために、話し合いの時間を有効に活用して、得意な児童の意見や考え方を参考にさせたい。
作文	正答率が79%で、十分に定着しているとは言えない。書くということに苦手意識が働くようで、無答が多かった。	経験を積むことで書くことへの抵抗もなくなり、必要なことを書けるようになると思うので、1日の振り返りを短文で書くなどの機会を多くしたい。また、日々の国語や総合の学習で、書きたいことを取捨選択して文章が書けるよう、丁寧に指導していきたい。